

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やホールに理念を掲げ、職員で共有している。毎日ミーティング後に職員で理念を唱和し、支援する目標と意義を確認している。	開設時に管理者と職員で検討し、【共に生活できる家づくり】というホーム独自の理念を掲げています。ホーム内に理念を掲示するとともに、毎日理念を唱和する機会を設け、年度目標も職員と検討・振り返りの機会を設け、理念の実践ができるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に事業所の広報誌を配布している。コロナ禍にて地域の行事に参加することは難しい為、職場体験など学生を受入れ、地域のつながりが途切れないような取り組みをしている。	地域に事業所広報を配布したり、近隣の中学生の体験学習も受け入れています。今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、事業所の避難訓練に地域の方にご参加頂くなど地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体の診療所や支援センター、訪問看護ステーション、併設の小規模多機能型居宅介護と共に、地域の方からの相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回書面にて、町内会長、ご家族代表、ご利用者代表、市の担当者、地域包括支援センターの職員にサービスの実態や取り組みを報告し、情報提供意見を頂戴している。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面での開催ですが、運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ご家族代表、町内会長、市の担当者、地域包括支援センター職員から意見を伺っています。参加者へ事業所の利用状況や活動状況などの報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍にて以前のような交流は持てないが、市の担当者や地域包括支援センター職員に運営推進会議の資料を郵送し、相談やご意見を頂戴している。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、運営に関するアドバイスを頂いており、連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は法人研修や内部研修に参加し、身体拘束廃止についての理解を深めている。事業所内では身体拘束を行わない方針を掲げ2か月に1回適正化委員会の内容を報告、周知している。	身体拘束を行わない方針のもと、身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1度開催し、法人でも身体拘束についての研修を行い周知徹底するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修や内部研修にて理解を深め、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。入職・異動職員にはその都度研修を実施している。	身体拘束研修と同じく、法人にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、日頃の言葉遣いも注意するなどし、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業の活用を実際に行っている。社会福祉協議会の担当相談員と共にご利用者の要望に応じた支援を行っている。今後は職員間でも成年後見制度について学習会等を儲けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書の他、ホームでの生活についても丁寧に説明している。また疑問点や不安な事などを聞きだし、ご理解とご納得できるような説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にはその都度、電話にて状態報告をしている。その際、気付いたことや要望はないか確認し、運営に反映できるよう部会時や運営推進会議にて報告、周知している。満足度調査を年に2回行っており、運営に反映させている。	ご家族には、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、ご利用者に対し満足度調査を年2回行い、意向に合わせたサービスが提供できるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、月1回開催している部署会議を通じて提案や意見を聞き運営に反映している。また状況に合わせて職員との個人面談も実施している。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の部署会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、状況に合わせて職員との個人面談も実施し、個人の要望や悩みを聞いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉関係取得に対しての手当・賞与の支給、通信教育の費用補助など、やりがいのある職場環境に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に、法人研修や内部研修を開催し職員一人ひとりのスキルアップに努めている。また法人外の研修について情報提供し参加できる体制づくりもできている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて外部との交流は難しい状況であるが、地域密着型サービスの質向上を目指すことを目的とし、市の研修に管理者が参加した。また感染症の研修にも参加し現場職員間で情報を共有できた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問時等に、本人の不安や希望等を聞き出し、安心した生活を送れるように日々の様子観察と話しやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前面談にて、ご家族の意向や不安などを傾聴しながら、信頼関係を築けるよう話し方の工夫をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合いを行い、現状を確認する事で、今必要とされるサービスを見極め支援している。必要時は母体の診療所へも相談・助言を頂く事で、より良い対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に作業活動を共に行っている。また季節行事などでは、ご利用者から色々な事を教わったりと、できないところをフォローしお互い支え合い「共に生活できる家作り」を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回ご家族宛にお便りを配布し、ご利用者の近況を報告している。また健康状態等、変化時はその都度家族に連絡し支援をお願いしている。ご利用者とご家族の絆を大切に、家族と共に本人の生活を支えて行くよう連携を図っている	月に1度のホーム便りの送付もご利用者毎にコメントを添えて、ご家族にご利用者の近況を報告しています。ご家族にも受診の支援をお願いするなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に通ったり、受診介助時などはご家族にご協力頂き支援に努めている。コロナ過にて面会は制限されているが、訪問時には短時間でも顔を合わせて頂けるよう工夫している。	今年度は新型コロナウイルスの影響で制限していますが、親族の葬式に参加したり、行きつけの美容室を利用されたり、ご家族と手紙のやりとりをしているご利用者もいるなど、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間での情報交換を行い、利用者同士の関係の把握に努めている。孤立しがちな利用者には、職員との関わりを通じて周囲とのコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関へ移られた方に対しては、サービス終了後も必要に応じてその都度連絡や相談を受け入れる体制がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で気付きを大切に、言動や表情等から思いや希望を引き出し情報共有に努めている。ケアプランの検討時には、本人の意向を聞き、反映されるよう検討している。	ご利用者に対して年2回満足度調査を行い、要望を確認しているほか、日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族からこれまでの暮らしの聞き取りを行い、嗜好や生活歴などを確認している。また定期的または状態変化時にアセスメントを行い情報を更新している。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。6ヶ月に1度の定期及びご利用者の状態の変化に合わせアセスメントを行い、情報の更新も行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や心身の状態、日中の様子を記録に残すとともに、1日3回の申し送りにて情報共有を行いながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から意向をお聞きし、関係者間で担当者会議を行いその方らしい介護計画書の作成に努めている。また介護計画の実施状況についてを日々確認している。	介護計画の実施状況を日々確認しているほか、把握した情報を基に3ヶ月毎に評価、6ヶ月毎に総合評価、アセスメントの取り直し及びサービス担当者会議を行ない、介護計画の見直しを行っています。	調査時点で確認したサービス担当者会議録に記載ミスもありましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実施状況、気づきや工夫を記録に残し、その情報を共有しながら実践にあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人機関、母体診療所やデンタルクリニックとの連携を密に行い、本人や家族の状況に応じて柔軟な支援とサービスの提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域資源の把握し、コロナ禍で制限はあるが地域との交流に努めている。中学生の職場体験学習を受入れ、グループホームの地域での役割を知ってもらうことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を受診でき、生協診療所以外の受診時はご家族に同行願ひ、医師あての情報提供書を準備している。必要時は職員も同行している。入居のご利用者には月2回母体の診療所が往診にきている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、往診も月2回来て頂いています。生協診療所以外でのご家族同行の受診の際には医師宛の経過報告書を用意したり、必要に応じて職員が同行して状態の説明等を行い、情報提供を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察の務め、状態変化時等は母体の診療所看護師、夜間拘束看護師へ連絡し24時間体制で報告・相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医療関係者と情報交換を行い、早期退院に向けた対応に努めている。また、母体診療所の主治医へ状況を伝え、退院後の受入体制も整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ホームで重度化した場合や見取りに関する指針を伝え、終末期医療に関する意向調査も行っている。入居後状態変化時には、主治医も交えて話し合いの場を設け、利用者家族の意向確認を行い方針の共有と支援に努めている。	契約段階で管理者はホームの重度化した場合や看取りに関する指針を伝えており、終末期療養に関する意向調査も行っています。入居後も、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームのできることを伝え、主治医とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や救急法、AEDの研修を年1回行い知識・実践力を身につけている。部署会議でご利用者の病状・状態・注意点など情報共有し、緊急時に備えている。	年に1度は法人でAEDの使用や心肺蘇生に関する研修を行っているほか、毎月の部署会議ではご利用者の病状・状態・注意点等の報告を行い、全職員に一人ひとりの状態を周知し、緊急時に備えています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、全職員が避難方法を身につけている。避難訓練には地域住民や町内会長からも参加していただき、協力が得られる体制は取れている。(コロナ過にて外部の参加者を制限している)	事業所にて、火災・地震・水害等を想定した避難訓練や緊急連絡網を使用した訓練を行なっています。非常用の食品や水も確保されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、プライバシー保護についての研修を法人内で行い職員間で周知している。また個々の人格を尊重した声掛けや対応が行えるよう職員も意識し取り組んでいる。	個人情報とプライバシー保護については法人で研修も行い職員に周知・徹底されています。また、氏名や写真の掲載についても入居の際に確認を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、利用者が自己決定できるよう場面作りを行っている。また本人の希望を表出できるよう個々に合わせた言葉かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が安全で暮らしやすい生活をベースに、個々の希望に沿った生活が送れるよう支援に努めている。制限はあったが、希望に沿った外出や行事も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望を聞きながら、その方らしい服装などを共に選んだり、衣類の汚れや髪の毛の乱れがないよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせたメニューや祝い膳等、出前寿司など希望に沿って提供している。年に1回嗜好確認も行い、希望の品をメニューに取り入れている。食事の盛り付けや食器拭きなど職員と共にやっている。	ご利用者にもや食事の盛り付けを行ってもらったり、食器拭きも手伝ってもらっています。また、季節に合わせたメニューを提供したり、笹団子をご利用者と一緒に作ったり、ご利用者に嗜好調査を行い出前寿司を頼む等の支援も行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者ごとに食べる量を調整し、副食の大きさについてもその方に合わせ、食べやすく刻んでいる。毎日の食事を確認できるよう、一人ひとりチェック表を作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、必要に応じて見守りや介助している。また就寝前には義歯の洗浄を行っている。口腔内の状態に変化があった時は、法人内のデンタルクリニックの訪問診療にて治療を行うことができる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンを把握するためにチェック表を活用し、その方に合ったタイミングで声掛けし、ズボンの上げ下げなど、自立に向けた言葉かけを行っている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、パターンを把握し適時に誘導したり、一人ひとりのトイレサインを把握し見逃さないよう注意を払い、出来る限り失敗せずトイレで排泄できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘気味の方に対しては水分補給に努めたり、運動が継続し行えるようプランに取り入れている。必要時は診療所医師に報告し、内服等の調整も可能となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望に応じて、順番や入浴時間を柔軟に対応している。またゆったりと入浴して頂けるよう、コミュニケーションにも努めている。	ホームには一般浴槽と特殊浴槽の2種類のお風呂があり、ご利用者の状態に合わせて支援できるようになっており、季節に合わせて菖蒲湯を提供したり、ご利用者の希望に合わせて同性介助での入浴支援も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活パターンやその日の状態に合わせて、休息が取れるように支援している。また、室温や湿度等、居室内の環境整備にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに内服薬の説明書を綴り、内服状況が確認ができる。また服薬時のマニュアルに沿って内服確認、介助を行っている。また症状の変化時は、医師や薬剤師に情報提供し、ご利用者が良い状態を保てるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで過ごしてこられた生活歴を大切に、その方の嗜好やできることの把握に努めている。生活の中で、張り合いや楽しみがもてるよう役割作りを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍にて以前のような外出支援はできなくなっているが、可能な範囲でご家族の協力を得て美容院などへの外出支援を行っている。また季節を感じられるよう、短時間の外出行事なども行っている。	季節に合わせてお花見や紅葉見学などの外出を実施しています。今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年ではご利用者の要望に合わせて買い物支援や外食支援も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じ、家族と相談したうえでお金の所持は可能としている。金額によってはお小遣いとして金庫でお預かりし、本人の希望時嗜好品などの購入に使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は家族に電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。コロナ禍にて面会制限もある為、遠方のご家族から本人と会話を希望される事もある。その際は電話で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に生花を活けたり、壁面に季節の飾りつけをし居心地の良い空間作りをしている。共有スペースにソファを置きご利用者がテレビを見れるような環境となっている。また廊下の壁には、行事の写真や共同作品などを掲示し心地よい空間作りに努めている。	共有スペースにはソファが置かれ、ご利用者がくつろぎながらテレビを見れる環境です。廊下にはご利用者のスナップ写真が掲示され、日々の活動が分かりやすくなっています。共有スペースには季節に合わせて雛人形やご利用者が作られた作品も置かれていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良いスペースに、ソファを設置して気の合った利用者同士が過ごせるよう工夫している。畳コーナーでも、談話ができるよう居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの生活が安心して送れるよう、使い慣れた家具等の持ち込みを働きかけている。また家族の写真や飾る等その方らしい居室作りを工夫している。	居室には、使い慣れた家具や仏壇などを持ち込んでもらったり、ホームでの写真やご家族の写真を飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内はどのような方でも使用しやすい手摺りを設置している。また、安全な環境作りを目指し、その都度対応を検討し改善に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				